

スポーツ産業の未来

FC 琉球 ~地域に根差すプロスポーツ~



スポーツ・ヘルスケア産業を取り巻く課題や、それに挑戦する企業を紹介する「スポーツ産業の未来」。第5回目となる今回は、地域密着型チームとして地域に根差した活動続けるJリーグ「FC 琉球」の取組をご紹介します。

FC 琉球とは

FC 琉球は、2003年に創設されたサッカークラブです。2006年には日本フットボールリーグ（JFL）に加盟、2014年にはJ3への昇格を果たし、

2018年にJ3優勝及びJ2昇格を決めました。J2に昇格した2019年は全22チーム中14位、2020年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、リーグ戦の中断もあり、全22チーム中16位でシーズンを終了することになりました。

J2で3シーズン目となる今シーズンは、リーグ戦序盤から好調を保ち、J2初優勝・J1昇格も目前です。

地域密着く地域に支えられ、地域を元気づけるプロスポーツ



FC 琉球が所属するJリーグは、リーグ全体として地域社会一体となったクラブづくりを進めています。そんなJリーグの理念に基づき、FC 琉球は、沖縄県を中心とした沖縄全県をホームタウンとし、学校訪

問やビーチクリーン活動、サッカー教室の開催などさまざまなホームタウン活動を行っています。また、2021年シーズンからは、ホームタウン、サポートタウン及びその他のエリアとして地域を区分し、それぞれの地域にタウン担当プレイヤーが配属されました。タウン担当プレイヤーは、各市町村エリアにおけるクラブのアンバサダーとして、地域とクラブを結びつける役割を担うことです。「新型コロナウイルス感染症拡大の影響で地域やサポーターとクラブの距離が離れてしまった。その距離をまた縮めたい。」と、コロナ禍の状況であるものの、地域を元気にするための活動を力強く継続しています。

このような活動のほかに、2020年シーズンには、首里城のイラストが描かれたユニフォームを身にまといJ2の舞台を駆け抜け、そしてそのユニフォームの売上の一部を寄付するなど、首里城再建の支援にも取り組んでいます。沖縄のシンボルとも言える首里城の焼失は沖縄県民にとってショッキングな出来事でした。そして同時に再建を願う思いは強いものがありました。そのような県民の思いを行動に結びつける。先

頭に立ち活動する事は、その地域にあるプロスポーツチームがやるべき事だと考えての取組でした。

人を育てる、 そして支えられる

FC琉球には2021年シーズンには沖縄県出身の選手が5人在籍しています。地域出身の選手がその地域のチームで活躍するということは、地域からすると非常に喜ばしく、元気づけられることだと思います。

一方、FC琉球としてはひとつ課題を抱えていました。それは、沖縄県内の地元クラブでサッカーを始めて成長してきた有望な若手選手が、高校や大学進学タイミングで県外へと流出してしまうことが多



©FC RYUKYU

いということでした。

しかし、最近ではFC琉球のホームタウン活動等により地域に根差したチームとして確立してきたこともあり、FC琉球で活躍したいと考える子ども達が増えてきているようです。

また、FC琉球は2018年から「FC琉球高等学院」という高卒資格が取得できる学校教育施設を運営しています。クラブの中核を担う選手の育成だけでなく、サッカーに関わり続ける事で、スポーツを通して社会に関わる人材を育成することを目的としています。この取組が、人材の県外流出を防ぐひとつの方策となり得るかもしれません。

Jリーグ全体に目を移すと



©FC RYUKYU

2022年から若手育成支援を目的としたホームグロウン制度がスタートします。この制度は、各クラブのトップチームの登録選手に必ず2人以上(J2・J3は1人以上)のホームグロウン選手(12歳から21歳の間、3シーズンまたは36月以上、自クラブで登録していた選手)を含めなければならぬという制度です。Jリーグ全体としても地域に根差す若手の育成の取組を進めていく中で、FC琉球のスクールやアカデミー、FC琉球高等学院での経験を経て、クラブの中核を担う選手が育つという、まさに地域に力を与えてくれるような話の実現することが期待されます。

J1、新たなステージへ！

FC琉球は現在J2で3年目のシーズンを戦っています。戦力が充実した今シーズンは念願のJ1昇格が大いに期待されます。J1昇格の追い風となるのが、那覇市奥武山に整備が予定されているJ1規格に則ったスタジアムの建設計画です。新たなスタジアムが整備されることでJ1への道が開けるとともに、国際通りなど那覇市の中心市街地からも近接しており、新たなヒトの流れを創出する観光

試合日程はこちら！



【お問合せ先】

経済産業部 企画振興課

☎098-866-1727



©FC RYUKYU

拠点としても期待されます。新たなスタジアムの整備は、今までFC琉球が重ねてきた地域密着の活動の成果と言えるでしょう。裏を返せば、地域からの期待の大きさと考えることができます。地域の期待を背負い、そして地域を元気にするため、地域密着型のチームとして活動が続けるFC琉球。これからもその活躍が期待されます。さあ、いざJ1へ！